特　集

大人の社会科見学

まもなく夏休みですが、皆さんは夏休みの計画は立てておられますか?

とはいえ、コロナ禍が長引いている中、大胆な計画も立てにくいという方も多いと思います。

そこで、今年の夏休みのテーマは、近場で行ける大人の社会科見学として、4つの非日常的体験をご提案することにしました。

いつもの弁護士業務の日常とは違った景色を見たり、実際に体験したりすることで、リフレッシュできることはもちろん、さらに発想が切り替わることでイノベーションが生まれて仕事に活かせるかもしれません。

この夏は、大人の社会科見学を楽しんでみてはいかがでしょうか。

「地下神殿」ツアー

皆さん、「地下神殿」をご存じでしょうか。遠い国の遺跡の話ではありません。都心から車や電車で約1時間、江戸川のほとりにそれはあります。正式名称は「首都圏外郭放水路」。洪水を防ぐために建設された世界最大級の地下放水路で、地下の巨大空間の荘厳さから「地下神殿」と呼ばれています。常時見学ツアーを開催しているというので、首都圏の防災施設の視察という大義名分を携えて、大人の社会科見学に行ってきました。

■首都圏外郭放水路とは

埼玉県と東京都を流れる中川・綾瀬川流域は、昔から幾度となく浸水被害に見舞われてきた地域で、この地域を水害から守るために作られたのが、首都圏外郭放水路です。

低地を流れる倉松川、大落古利根川などの中小河川と水路の水位が上昇したときに、その水を4つの立坑から取り込んで、国道16号線の地下、深さ約50m・全長約6.3kmの地下トンネルを通して江戸川に排水するという仕組みです。総工費約2300億円。1993年3月に着工し、およそ13年の歳月をかけて2006年6月に完成しました。

首都圏外郭放水路には「第１立坑」から「第5立坑」までの5つの立坑があります。各立坑は、深さ約70m、内径約30mで、「スペースシャトルや自由の女神がすっぽり入る大きさ」（国土交通省江戸川河川事務所HPより）なのだそうです。

この５つの立坑のうち第２から第５までの４つの立坑は、その上を流れる河川や水路が氾濫しそうなときにその水を取り込むための施設です。こ

れに対し、江戸川に最も近いところにある第１立坑は、水を取り込むための立坑ではなく、トンネルを通って流れてきた水を江戸川に排水する前の「調圧水槽」に送り込む役割を担っています。見学ツアーで見ることができるのは、この「第１立坑」と「調圧水槽」です。

■ツアー申込み

見学ツアーには４つのコースがあり、今回はせっかくなので最も所要時間の長い「インペラ探検コース」に申し込むことにしました。

申込みはWEBサイト又は電話で行います。WEBサイトの注意事項を見ると、『階段約100段を自力歩行できる方に限る』とか『このコースご参加に当たり「同意書」をご提出いただきます』とか、けっこう怖そうなことが書いてあります（なお、全コース、未就学児は参加できません。）。

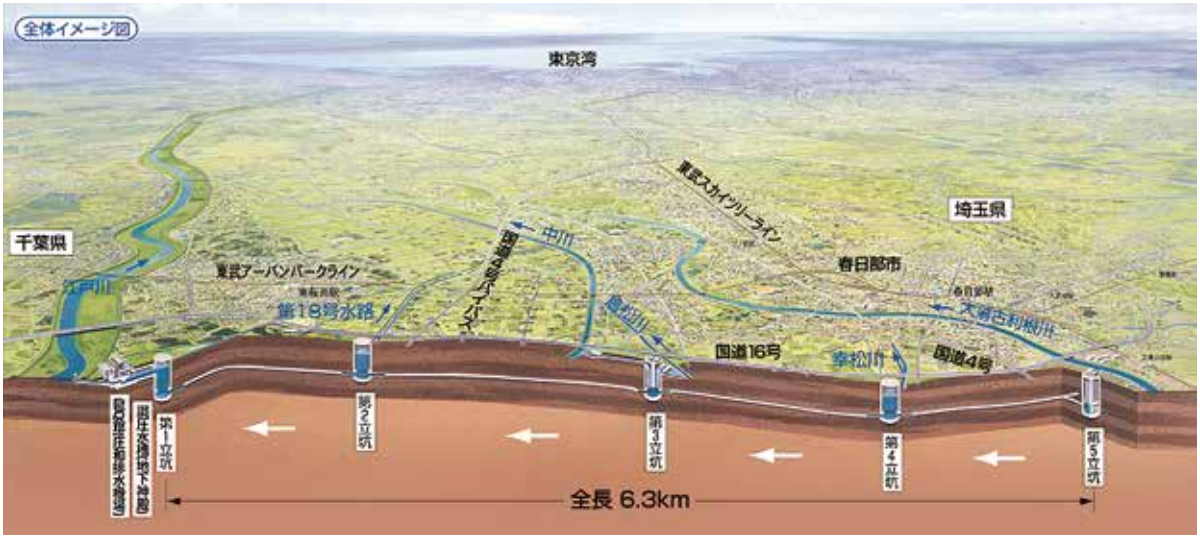
当日の服装については、『このコース（インペラ探検コース）では、ヒップウェーダー（長靴）ならびにヘルメット（ヘッドライト付き）を装着していただきます』、『ヒップウェーダーを装着するにあたり、ベルト通しのあるズボン（スカート・ワンピースでのご参加は不可）でのご参加をお願いいたします』とのこと。「ヒップウェーダー」って何？という疑問を抱くものの、サイトには写真もイラストもありません。ちなみに、ヒップウェーダーを装着するのはインペラ探検コースだけです。

服装選びで気になるのは気温です。地下の施設内は暑いのか、寒いのか。これについてもサイト上には情報がありません。聞いてみたところ、「夏は20℃、冬は10℃程度」とのこと。取材当時は桜の季節だったので10℃にも対応できそうな服装を用意することにしました。

■いざ「龍Ｑ館」へ

電車で行く場合、最寄り駅は、東武野田線の「南桜井」駅。南桜井駅へは、大宮・春日部から柏方面に向かう方法と、逆に柏から大宮・春日部方面に向かう方法がありますが、都心から行くなら前者の行き方をお勧めします。というのは、春日部から南桜井駅に着くまでの間、電車はいくつかの小さな川を渡るのですが、それらの川の中に首都圏外郭放水路の立坑が設置されている河川があるからです。電車の中では、スマホの地図アプリで現在地を確認しながら、外の景色を見ましょう。大人の社会科見学はここから始まっています。南桜井駅に着いたら、駅から徒歩はややキツいのでタクシーの利用をお勧めします。

庄和排水機場に併設されたミュージアム「龍Ｑ館」。１階の受付でまず手渡されるのが同意書です。『階段を約100段自力歩行します』とか『飲酒していません』など、全部で14のチェック項目があるのですが、ひときわ目を引くのがスマホやカメラに関する項目です。見学中に落としても取りに行けないこと、損害賠償を請求しないこと、の２点について同意させられます。実際、第１立



全体イメージ図　　江戸川河川事務所HPより　https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00402.html

坑の底にはこれまでに見学者が落としたスマホが少なくとも２個眠っているとのこと。

受付を済ませたら2階の展示室に向かいます。展示室に向かうまでの階段（ここでも階段の自力歩行が必要ですが、これは「約100段」のカウントには含まれていません。）にある展示パネルで、江戸川河川事務所の所管する地域の治水事業の概要を知ることができます。

展示室にあるロッカーに荷物を預けたら、いよいよツアー開始です。取材時は、他の参加者も含めて20名程度の参加がありました。まず、係の人が床に貼られたパネルを使って首都圏外郭放水路の地理的な説明をし、続いて、ポンプ設備の模型で、この施設が水をくみ上げる様子を再現します。ここではさらに中央操作室をガラス越しに見ることができます。この中央操作室は、映画やドラマのロケに使われることがあるそうで、ドラマ『下町ロケット』のオペレータールームの撮影に使われたことがあるそうです。

映画やドラマのロケにも使われる中央操作室

これらが終わると1階に降り、いよいよ「ヒップウェーダー」を装着します。太ももの付け根まである長靴で、ストラップを腰のベルトかベルト通しに引っかけて固定します。ヘッドライト付きのヘルメットもかぶり、地底探検気分が盛り上がります。

ヒップウェーダーとヘルメットを装着した柳楽隊長（右）と青木隊員

装備が整ったところで龍Q館の外に出て、第1立坑の入口まで屋外を歩きます。右手にサッカーグラウンドが広がっているのですが、数日前に降った雨の水が抜けずに水浸しになっていました。その理由は後で説明されます。

■いよいよ地下へ

いよいよ地下に入ります。まずは第１立坑です。

第1立坑内部

狭い螺旋階段（分量外）を下って鉄製の作業用通路に降り立ちます。まだこのあたりだと外気温との差はほとんどありません。僅かに水の溜まった底部が、トンネルで第２立坑へとつながっています。この底にスマホが2台眠っているとのこと。写真の右奥に見える開口部が、このあと見に行く「調圧水槽」につながっています。内径約30m、深さ約70mの大空間は迫力があります。

第１立坑の見学を終えると、一旦地上に出て、グラウンドの隅にある小さな建屋に向かいます。ここが「地下神殿」と呼ばれる調圧水槽への入口です。ここから116段の階段を降ります。しばらく狭い屋内非常階段のようなところを降りていくと、突然目の前が開けます。先程までとは空気が明らかに違っていて、ひんやりします。

長さ177m、幅78m、高さ18mの大空間。ここに立ち並ぶ柱は1本500t、全部で59本あり、その荘厳さから「地下神殿」と呼ばれています。この柱と天井の重さによって、周囲の地下水から受ける揚力で水槽が浮き上がるのを防いでいるそうです。

参加者全員が下に降りたところで係の人が説明を始めるのですが、少し離れたところにいると、声が反響して何を言っているのか全く聞き取れな

「地下神殿」の異名を持つ調圧水槽

くなります。途中から聞くのを諦めて3人で写真撮影にいそしんでいたところ、しんがり担当のスタッフから「あとで撮影の時間はありますから（＝人の話を聞け）」と、遠回しに怒られました。まるで子どもです。

その後、写真撮影タイムを経て、「インペラ探検コース」ではさらに奥へと進みます。

長さ177mの調圧水槽の中を、反対側まで歩きます。実はこの頭上、長方形の天井の上がサッカーグラウンドになっているのです。分厚いコンクリートの上に砂を乗せているため水はけが悪く、そのため、数日前に降った雨がまだ水たまりとして残っているということでした。そのグラウンドの地下を第1立坑の反対側まで歩くと、奥に暗い水路が見えてきます。位置的には龍Q館の下あたりまで戻ってきたことになります。この水路の奥が、羽根車で水をくみ上げて江戸川に排水するポンプ設備につながっていて、そのポンプの羽根車を「インペラ」と呼びます。

ここで水の中に入ります。いよいよヒップウェーダーの出番です。膝あたりまで水につかります。ただ、ヒップウェーダーは名前に「ヒップ」とある割には尻が全くガードされていないので、ばしゃばしゃ歩くと尻は濡れます。ゆっくり歩きましょう。

一番奥にインペラがあります。ポンプ設備は全部で４機あって、この時見たのは２号機だそうです。羽根車を下から見上げるのですが、ぽたぽたと水が滴ってくるので気をつけましょう。インペラを見たら水路を引き返し、もう一度神殿の中を

洞窟の奥へと進む青木隊員

インペラを見上げる西川隊員

調圧水槽入口。
グラウンドの向こうに見える建物が龍Q館（庄和排水機場）

端から端まで歩いて、地上に出る階段に向かいます。最後に116段の階段登りが待っています。

階段を登りきった満足感を胸にサッカーグラウンドの横を歩いて龍Q館に戻り、装備品を返却したらツアーは終了です。最後にアンケートがあります。

■東京から行ける非日常体験

この首都圏外郭放水路が稼働するのは、これまでの平均でだいたい年に7回くらいなのだそうです。それだけの回数、この地域を洪水から守ってきたということですね。

小学生以上で身長130cmを超えていれば子どもの参加もOKです。都心から1時間ほどで行ける場所で、非日常を体験しつつ防災を学ぶ、大人の社会科見学を楽しんでみてはいかがでしょう。

【お問合せ】

首都圏外郭放水路事務局

（料金：1,000円～、予約制）

https://gaikaku.jp　電話：048-747-0281

ANA格納庫見学

ANA Blue Hangar Tour

（Hangar＝格納庫）

皆さま、出張や旅行などで航空機を利用する機会は多いと思います。私たちにとって身近な交通機関ですが、鉄道やバスなどと異なり、航空機の機体を間近で見る機会は少ないですよね。今回は、ヒコーキ好きの編集委員と元ツアコンの編集委員が、航空会社の格納庫に入って整備中の航空機を間近で見学するというツアーに参加しました。

■予約

「ANA Blue Hangar Tour」専用サイトから予約しました。予約が取りにくい人気ツアーとのことなので、サイトでツアー実施日時と予約開始日を確認の上、予約開始直後に申し込むことをお勧めします。

■チェックイン

最寄り駅は東京モノレールの新整備場駅です。ツアー集合場所に到着後、空港カウンターを模した受付カウンターでチェックインをして首掛け式の入場カードを受け取りました。ツアー中は立ち入り規制エリアに入ることから、チェックイン時には身分証明書の提示を求められました。

■事前説明（約30分）

会議室に入り、指定された席に着き、係員からANAグループの整備部門に関する説明解説を聞いたり整備部門を紹介する動画を観たりしました。ANAには5つの整備部門があり、Hangar Tourで主に見学するのは「ドック整備」と呼ばれる部門です。「ドック整備」とは「機体を格納庫へドックインさせ、定期的な整備・点検を行」うことだそうです。

紹介動画が終わると、短い休憩時間があり、この間に大きな荷物がある場合はロッカーに預けるなどしました。休憩後に、ツアーガイドの指示に従い見学者用のヘルメットを着用しました。ポニーテールや高い位置でのお団子ヘアだと着用が難しいかもしれないので、お気をつけください。

■格納庫見学（約60分）

今回は8名ずつ3班に分かれて見学しました。保安検査のための検査ゲートを通過すると、いよいよ格納庫見学ツアーの開始です。羽田空港にはANAの第1と第2の2つの格納庫がありますが、見学できるのは第1格納庫と呼ばれる施設です。第1格納庫には同時に7機の機体を格納できるとのことです。

ガイドの先導で格納庫への扉が開かれると、目

の前に、早速巨大なボーイング787の機体が現れました。まずは、ビルの3階に相当する高さのデッキから機体を見下ろす感じで見学しました。見学を始めてから10分後くらいには、トーイングカーに牽引された別のボーイング787がゆっくりとドックインしてくる様子を見ることもできました。

その後、格納庫内の階段を使って地上階に降りました。地上階では、ボーイング787や777の間を縫って歩いて適宜ガイドの説明を聞きながら見学しました。間近で航空機を見上げた迫力はもちろん、人の大きさとの対比を目の当たりにすることでその大きさを実感しました。格納庫の隣が滑走路なので、整備中の機体越しに離陸する航空機を頻繁に見ることもできました。稼働中の整備士の数が想像していたよりも少なかったのですが、それでも、同時に5~6人の整備士が一つのエンジンの中に入って作業をしていたり、協議をしたりしている様子を目にしました。

個人使用が目的であれば、写真撮影は自由です

（写真撮影に関する細かい注意事項は専用サイトに掲載されています）。私たちも含め、参加者の多くが夢中で写真撮影していました。約60分という見学時間はあっという間に過ぎていきました。

■展示ホール（約30分）

ツアー終了後は、受付カウンター横の展示ホールを見学しました。展示ホールには整備士や整備部門の説明のパネルなどが展示されており、実際に使われている部品や工具に触れることもできます。ここは、ツアーが始まる前でも見学可能ですので、少し早目に行って予習してからツアーに参加するのもよいかもしれません。

受付カウンターの対面にはANAオリジナルの小物などが売っているコンビニエンスストアもあります。

いろいろ見学していると、航空会社や空港のスタッフになったような気分になってくるので、帰りに羽田空港に寄って余韻に浸ってみるのもよいかと思います。

ANAには、このほかに客室乗務員や運航乗務員などの訓練施設を見学する「ANA Blue Base Tour」があります。また、JALには格納庫や展示エリアを見学する「JAL SKY MUSEUM」があります。いずれも羽田空港エリアで実施されているのでお好みのツアーに参加してみてはいかがでしょうか。

【お問合せ】

ANA Blue Hangar Tour

（無料、予約制）

https://www.anahd.co.jp/group/tour/ana-blue-hangar/

都内にいながら海外旅行体験

FIRST AIRLINES 浅草

■浅草国際空港から空の旅

実際に旅に出たような気分を味わいたい！という方にお勧めなのはこちら。FIRST AIRLINES浅草は、プライベートジェットを模した施設で、

バーチャル世界旅行が体験できます。入り口は一見普通のビルのようですが、一歩足を踏み入れるとすぐに機内クルーさんがお出迎え。自分の名前が印字された搭乗券と当日のフライト便のスタンプを押したパスポートを手渡してもらえます。

機体の中へ進むと、そこは本物のプライベートジェットのよう。シートベルトやリクライニング機能などが細やかに整えられています。離陸に向け、非常用設備の使い方の説明などもありとてもリアルです。

窓を眺めると、飛行機が飛行場内を移動している風景が見えます。離陸のときが近付くにつれ、「ゴーッ」という音がして、さらに座席全体も実際に少し振動するので、本当に離陸の瞬間を迎えるような感覚が味わえます。左右の席で機体から見える景色も少しずつ異なっていて、離陸後にはその風景から機体の傾きまでも感じることができます。

■豪華なフルコースのお料理とペアリングのワイン

続いて、お待ちかねの機内食が運ばれてきます。アミューズ、前菜、スープ、お魚とお肉のメイン、デザートのフルコース。それぞれの料理に合うお酒が用意されています。ノンアルコールのペアリングもあるので、「この後仕事がある」という方でも安心して楽しめます。

■VR体験でお好みの国へ

途中、頭に装着する機械が手渡されます。これを着けると、目の前にはVR映像で旅先の景色が広がり、足元から空まで自分の目線を向けた先360度どこでも好きなところを眺められます。ガイド音声付きです。浅草国際空港へ戻り無事着陸するシーンまで体験して、終了となりました。

なお、取材の日に訪れた便は、「イタリア行き」でしたが、他にもフランス、オーストラリア、フィンランド、シンガポール、チェコ共和国などへの就航便がありますから、あらかじめ予約の際にお好きな旅行先の日程を選んでくださいね。

【お問合せ】

FIRST AIRLINES 浅草

（料金：1人7,980円飲み物は別料金）

https://firstairlines.co.jp/asakusa

本物そっくりに出来上がる感動

食品サンプル製作体験

■料理道具の街・かっぱ橋道具街で体験

モノ作りでちょっと変わった体験をしてみたいという方にお勧めなのが、こちら。

皆さん、食品サンプルをご覧になったことがありますか。飲食店などの店頭に置いてあるアレです。この食品サンプルの製作体験が、料理道具の街・かっぱ橋道具街でできるということで、行ってきました。

ユニークな商品がたくさん置いてある1階から、らせん階段で2階へ上がると、そこが製作体験スペース。エプロンなど必要なものは一式準備してあります。

■メニューは天ぷら＆レタス

今回体験したのは、体験メニューのうち、一番手軽とされている常設メニューの「天ぷら＆レタス」コース。他に期間限定メニューがあり、訪問時は「イチゴのミルフィーユ」コースが設定されていました

現在は、食品サンプルはビニール樹脂で作られているそうですが、体験では、1970年代後半から80年代前半頃まで使われていたろうで作ります。

自分たちでチャレンジする前に、指導担当のスタッフが、実演してくださいます。まずは天ぷら。温めて液状になっている、天ぷら衣に見立てたクリーム色のろうを、お湯の中にポタポタ垂らしていくと、天ぷら衣を油の中に入れたときのように、きれいに天ぷら衣のサンプル状になっていきます。これをあらかじめ選んだ具材（もちろんサンプルです）を置き、お湯の中でひっくり返すと…、何ともおいしそうなエビの天ぷらに仕上がりました。

次にレタス。今度はレタスの芯に見立てた白いろうを、水面に流し入れ、今度はそれを薄く伸ばして、広げていきます。そして葉に見立てた緑のろうを白いろうに重ねるように流し入れ、ゆっくりお湯の中をくぐらせて引き上げると大きな葉のようになります。これを適当に丸めて、本物同様、包丁で切ると…、確かにレタスになりました。

スタッフの実演を受けて、自分たちでもチャレンジしました。スタッフが横でアテンドしてくださるので、安心して取り組めます。やってみると、意外に工程が本物の料理と似ていて、面白い。ただ、出来栄えはスタッフ製作のモノとは比べ物にならず、改めて職人の技術はすごいなあと感心しました。自分で製作した天ぷらとレタスは、持って帰れます。不出来でも愛着の湧く作品となりました。

終了までの時間は約40分。浅草にも近いので、浅草散策のついでに立ち寄ってはいかがでしょうか（要予約）。ちなみに、作っていると天ぷらが食べたくなってくるので、体験後に天ぷら屋さんに行くのもお勧めです。

【お問合せ】

元祖食品サンプル屋合羽橋店

（料金：1人2,500円（天ぷら＆レタス）、予約制）

https://www.ganso-sample.com/experience/